

令和7年度第1回中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館協議会 会議録

日時	令和7年9月5日（金） 午後3時30分～午後4時50分
場所	旭川市彫刻美術館 研修室
出席者	<委員> 西村徳清、岩永啓司、南部正人、村田典子、成田伸一、間藤洋子 <彫刻美術館> 田村社会教育部長、坂本文化振興課長、南雲彫刻美術館長、山崎 彫刻美術館主査、臼杵彫刻美術館学芸員
会議の公開又は 非公開の別	公開
傍聴者数	1人
会議の内容 （議題）	1 令和6年度事業報告について 2 令和7年度事業計画について 3 その他について 以下の会議録のとおり
会議資料	・令和6年中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館年報（PDF） ・令和7年度旭川市彫刻美術館事業計画（PDF）

【会議の内容】

1 開会

2 社会教育部長挨拶

以下、会長の進行により、議事を審議する。

3 議事

（1） 議事1「令和6年度事業報告について」

（2） 議事2「令和7年度事業計画について」

（3） 議事3「その他について」

事務局から、議事1「令和6年度事業報告について」及び議事2「令和7年度事業計画について」一括して報告、説明を行った。

●会長

事務局から令和6年度事業報告及び令和7年度事業計画について、まとめて説明があったが、質問や意見はあるか。

●委員

資料の年報によると、開館から数年は2万人前後の入館者数であったが、現在は右肩下がりになっている。この状況をどのように分析・検証しているのか。こうなった理由を教えてください。

●事務局

どのような施設も開館当初は勢いがあって入館者数は多いと考えるが、平成10年度から平成17年度まで観覧料が無料になり、平成18年度からまた観覧料が有料になったことも影響していると思う。

●委員

動物園も入館者数が低迷していた時期があるが、スタッフのアイデアを採用して回復した過程があった。彫刻美術館も学芸員等から面白いアイデアを引き出して、斬新な企画展を開催して欲しい。

●委員

本館の入館者が少ないのは、ステーションギャラリーができた影響もあると思う。私が子供の頃は、学校の社会科見学で美術館に行く機会もあったが、今は集団で行く機会も減ってきている。その影響も入館者数が減ってきている一因なのかなと感じる。これから入館者数を増やすことは難しい時代になってきていると感じる。

あと、年報では、子供たちとのワークショップのことが書かれているが、こういったワークショップは小学生限定で開催するので、中学生、特に高校生になるとなかなか参加することができないのがもったいないと思う。本当は高校生もやりたいのではないかなと感じる。私は高校と大学で講師をしているが、市内の高校の授業でも、芸術は選択授業で、音楽、美術、書道、工芸とあるが、音楽や書道だけとか、芸術の選択がない高校がすごく増えている。高文連でも、昔ながらの彫刻作品がなかなかない。

今の高校生はSDGsの勉強をしてきている世代なので、ストローをたくさん使った立体作品やごみを使った立体作品など、そういった作品がすごく多い。

そういうものを見ていると、私感だが、小・中・高で図工や美術の時間が大分減ってきて、粘土をこねて何かをつくる等の機会が減ってきていることを実感する。なかなか難しいと思うが、中学生や高校生にも作品を作る機会があればいいなと思う。

事務局から10月に中高生等を対象にしたワークショップを企画しているとの説明があったので、粘土をこねるとか、彫刻を掘るとか、そういう体験ができればすごくいいなと思う。

●事務局

我々も子供たちへのアプローチは非常に重要だと考えている。子供たちに旭川に彫刻に特化した美術館があることを紹介して知ってもらうことは非常に大事だと考えており、子供たちをターゲットにしたいろいろな事業を展開している。また、彫刻美術館を知らない、なかなか来ることができない児童に対して、バスで送迎をし、井上靖記念館と一緒に来館

してもらおうという取組を行うことで、大人になっても来館してもらえるよう子供たちにアプローチをしている。委員が言ったように、今年は小中学生のみならず、高校生、大学生にも体験してもらえるような事業を計画している。

●会長

受験生で彫刻をやりたいという学生が非常に少ない。学校現場としては、場所や用具が必要で、また時間も掛かるので取り組みにくい。事務局の説明を聞くと、作る場をバックアップしていくことが必要と感じた。

●事務局

科学館で行っている「科学館クラブ」のように、月に1回通年で、小学生や中学生が通って、いろいろな彫刻等の制作をし、美術を学べる「美術館クラブ」があってもいいのではないかと思い、次年度の事業として検討している。

●委員

美術をやりたいと思っても、高校生は授業で美術がない、中学校には美術部がない。芸術や美術を感じてみたいという子供たちもいると思う。そういう子供たちが、なかなか美術に触れる機会がないのは寂しいので、そういう機会があるといいと思う。

●委員

私の学校で、総合学習の時間に彫刻美術館を利用した。近くだと自転車で行くこともできるが、大人数だとなかなか難しい。何回も足を運びたいと感じる場所にするには、常設展の展示の仕方とか、コンセプトを工夫するとか、そういった取組をするといいのではないかと思う。

●委員

前から感じていることだが、ステーションギャラリーの展示期間の半分が織田コレクションの展示が占めている。ステーションギャラリーがある場所が旭川駅であり、駅という場所は、観光を楽しむための入口でもあることから、やはり観光客の気持ちの高鳴りに合うような北海道を感じる展示を提供するという事は大事な事だと思う。

織田さんのコレクションはもちろん素晴らしいのだが、地元の文化などを感じられる内容をメインにしてほしいという思いがある。収蔵している作品をどんどん活用してほしい。保管場所の問題の解消にもつながるのではないか。

●会長

事務局としては、人とお金の問題があることも理解できるが検討して欲しい。

●事務局

もちろん人とお金の問題はあるが、御意見をヒントにし、これまでとは違う発想で取り組んでいきたいと考えている。本日の会議の場だけでなく、気がついたことがあれば、意見を出していただきたい。

●委員

今年の会議でも話が合ったが、設置されて何十年も経つ野外彫刻がたくさんあるので、野

外彫刻の修繕をやっていかななくてはならないと感じている。インターネットを活用したふるさと納税の取組も旭川市で行っているので、全国の美術ファンから応援してもらおうとか、クラウドファンディングを活用するとか、資金を集める取組も必要になってくると感じた。

●事務局

野外彫刻の維持管理については、お話のとおり課題がある。お金が際限なくあれば何でも修繕できるが、緊急性の高いものから優先順位を付け計画を立て行っている。また、今年度は台座のねじがゆるんでいるところや石板が取れているところなど、軽微な修繕についてはボランティアの彫刻サポート隊と協力しながら行っている。事業計画でも説明したが、企業版ふるさと納税を活用して台座を更新しており、今後も機会があったら活用し修繕していきたいと考えている。

●委員

私は、「みゅうず」でボランティアをしているが、コロナが終わって、彫刻美術館に足を運んでくれる観光客の方が増えてきていることを感じている。美術館のことをとにかくすばらしいと言ってくれてもいる。お客さんはまだ少ない状況ではあるが、それでも去年よりコーヒーを飲みに来てくれる方が増えている。ラウンジで書籍やグッズ類を販売しているが、今年は彫刻美術館の方にも協力をしてもらい缶バッジを制作し、それも順調に売れている。

活動が土日祭日の限られた中で、なかなか市民には伝わらないが、定期的にコーヒーを飲みに来てくれる方や、フラッときて「コーヒーだけでもいいですか」と言ってコーヒーを飲んで帰ってくださるお客さんも随分増えた。

昔は「みゅうず」のボランティアの会員数も今の倍の人数がいて、コロナで少しずつ減って、今の人数になったが、今年は募集すると若い人が入ってくれた。そういう意味では、少しずつコロナの影響から解放され、活動が市民に広がっていくのかなと思って、それを楽しみにしながらボランティアをしている。

●事務局

来館者は去年よりも増えている。

●委員

「みゅうず」の売り上げも去年よりも増えている。

●事務局

観光客の方が、「期待以上に本当にすばらしい。」「もっと宣伝しないとだめだよ。」と叱咤激励を受けた。SNSやいろいろな手法で周知を図っていきたい。

●委員

本日は委員からいろいろな意見があって学ぶことも多かった。彫刻は芸術ジャンルの中では、なかなか日の当たらないジャンルで、そういったジャンルに光を当てていただいていて日頃から感謝している。

本日の会議の進め方として、前年度の事業報告と今年度の事業計画をまとめて行っているが、何か理由はあるのか。

●事務局

特に理由はないが、報告と計画を分けて行うことも可能である。

●委員

委員から建設的な意見や指摘があったので、そこは事業報告と事業計画を分けてもらいたい。

●事務局

承知した。

●委員

私は、社会教育基本計画の中間見直しにも関わっているが、社会教育委員の願いとしては、各施設がそれぞれの裁量を持って、創造的に仕事をしてもらえるようにしたいという思いがある。

職員の人数が限られている中、事業が多岐に渡っており、事業の数はもう少し整理されてもいいのかなと思う。委員の指摘のように、斬新な企画とか、そういったところに注力した方が、旭川市にとってもいいと思う。観光ということで言うと、「観光」という言葉は和製漢語で、もともと日本で生まれた言葉であり、その土地の理解や文化や伝統等、そういったものを見るという意味で、中国語だと「旅游」という言葉となって、遊びや娯楽が目的となるらしい。

施設の特徴として、アクセシビリティと言うか、重要文化財であるため利便性という部分で問題を抱えていると思う。階段があるため、車椅子を使用している方は入りにくく、それはすぐに対応できないことかもしれないが、全国でも彫刻を専門としている美術館は少ないので、どうやってレアなジャンルに人の関心を寄せるかが大事だと思う。

先程、最近、若いボランティアが増えてきているという話があったが、昨年度の調査であるが、世界的に見ると日本の若者は美術館に足を向けることが少ないが、近年Z世代を中心にちょっとずつ美術館に足を向け始めているとの調査結果があり、その動機が展覧会の内容ということが言われている。

この施設としては、近代彫刻のコレクションが展示されているが、各国の美術館に行くと工夫がされていて、フランスの美術館の面白い取組としては、古い近代彫刻と地元の現代作家の作品と混在させて対比して展示するなど、若い人たちに足を向けさせる取組をしている。台湾の市立美術館の取組としては、美術館の展示スペースを市民に年間を通じて提供していて、若い作家から募集した展示の企画を市が審査して、よい企画の人には美術館で一定期間展示する取組を行っている。その展示を鑑賞するため、多くの若者や親子連れも来館していた。

彫刻美術館の事業計画には、たくさんの事業があるので、難しいかとは思いますが、例えば、市にはたくさんの社会教育施設があるので、そういったところと連携して、事業を展開し

ていけばいいと思う。

社会教育基本計画の参加者へのアンケート調査結果の中で、美術館の方で実施していない項目がある。それを実施して公表すると美術館の存在感が増して、市民に対しても影響が強まると思う。それも検討していただきたい。

道外の作家の方々が口々に言っているのは、「彫刻美術館は日本の宝」だと。旭川市民はなかなか彫刻美術館のことを相対化して見ないので、価値が分かりにくいかもしれないが、ふるさと納税は、この館が持っている作品の価値を知っていて、大事に残したいと思っている人の思いをすくいながら協力を仰ぐことができるいい制度だと思うので活用していただきたい。

維持管理については、市内に若い経営者で意欲的に新しい技術に取り込んでいる専門業者がいる。例えば、アクセスシビリティの面で言うと、見て触れる彫刻のレプリカを作って設置するとか、専門業者が有する技術を応用すれば、制作することができるし、それを市の資源として、活用していけたらいいなと思う。

●会長

委員からたくさん意見をいただいた。事業を少し整理して、的を絞ってやっていったらよい。

●事務局

事業数に関しては、多いか少ないかははっきり言えないところもあるが、館として続けていかななくてはならない事業もあるが、増やせばかりいと職員の負担も増えてしまう。新しい企画の中から、若い人たちが観覧したいという気持ちになるような展示や企画を展開していきたいと考えている。スクラップアンドビルドで、時代の変化に合わせてバランスを考えて行っていきたい。

また、観光で来られた方の館に対する意見として、中原悌二郎以外の作品がないと思っている人が多いかもしれないという指摘があった。館の名前を変えることはできないので、中原悌二郎の作品から始まって、中原悌二郎賞とその受賞作家の作品を一同に観覧することができることが伝わる方法を考えている。

●会長

2階の展示室は、非常にコンパクトに中原悌二郎の近代彫刻と中原悌二郎賞受賞者の作品を一目で見ることができ、近代彫刻の変遷、発展を見渡すことができる展示になっている。課題は、彫刻や重要文化財である建物の魅力をどう分かりやすく伝えていくかという水平的なところと、中原悌二郎や中原悌二郎賞やその受賞作家などの時代の変遷をどう出していくかという垂直的なところ。なぜ中原悌二郎記念なのか、中原悌二郎賞なのか、その先まで見据えているのか、そういったところまで分かるような、そんな美術館になってくれるとうれしく思う。

●委員

今の話を聞いて、教育普及活動について今年の会議でも発言したと思うが、この美術館の

価値を伝えるには、ボランティアである彫刻サポート隊の存在はすごく大きいと感じている。教育普及活動として、表現者を講師にするのもいいが、ボランティアの方たちを講師にした教育普及活動ももっとやってもいいのではないかなと思う。

若い世代のボランティアに対するイメージが今までの概念とずれてきているのではないかなと感じる。先程のグッズ販売の話は、すごくいいなと思っていて、ボランティアが自発的に新しいアイデアを出して館の運営に携わる。そういうことに魅力を感じる若い世代もいると思う。そういったことにも取組んでいただけたらと思う。

●事務局

引き続き取り組んでいく。

●会長

それでは、本日の議案 1 及び 2 の承認についていかがか。(一同承認)

●会長

それでは、(3)のその他について、事務局から説明願う。

●事務局

以下、3点について説明。

- ・第 44 回中原悌二郎賞受賞者及び贈呈式について
- ・今年度の旭川市職員採用試験について
- ・令和 8 年 10 月の市有施設の使用料金改定について

●会長

これにて令和 7 年度第 1 回中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館協議会を閉会する。

5 閉会